

第 62 回 東京消化器内視鏡看護勉強会レポート

テーマ：「BLS を学ぼう」

日 時：2025 年 4 月 19 日 14：00～16：00

会 場：五反田文化会館

参加者：15 名

2025 年度 1 回目のテーマは、『BLS を学ぼう』です。この会の参加者の特色として病院の規模やクリニックなど職場環境は様々です。いつどこで救急処置場面に出会うかわからないことを念頭に、日ごろから意識し訓練を繰り返すことが大切と考え企画しました。講師には、東京消防庁品川消防署五反田出張所、消防隊員 4 名に来ていただきました。緊急車両での出張のため 1 名は車両に待機中という中、お越しいただいたときは出席者の中に意欲と緊張が走り空気が変わりました。そのような雰囲気の中、心肺蘇生法の講義（緊急車両が到着には 7 分～10 分程度）・実技などを行いました。参加者少なめではありましたが、十分に体験でき、素朴な疑問もその場で質問し解決することが出来ました。以下 AED の取り扱い・心蘇生について細かなポイントを紹介します。



【AED】

- ・パットは汗や体毛・貴金属類・ペースメーカー等の医療機器を避け、しっかり密着させる。
- ・心臓を挟むように装着。パットは右鎖骨下と左脇が基本だが、やむを得ない場合もある。
- ・「AED」のケースには、はさみ・剃刀・タオルが常設されていることもある。
- ・パットの青シールははがす。（はがさずとも自動解析はするが、電流が流れない）
- ・1 度貼付したものを張り替えると密着しづらいので予備を使用する。
- ・未就学児の場合の貼付は、胸と背中に。
- ・機器により未就学児用のパットにしなくても、切り替えモードが付いているものもある。
- ・「オートショック AED」もある。（心電図解析中も胸骨圧迫を継続できる）
- ・野外であった場合など処置のみならず、個人配慮も必要。

【心蘇生】

- ・ 平らな安全で安定した場所へ移動
- ・ 胸骨圧迫の深さ 5cm、100 回から 120 回リズムよく連続する。
(小児は片手または両手・乳児は指 2 本 胸の 3 分の 1 程度)
- ・ 胸骨圧迫連続維持はかなり大変であるが、交代しながら継続することが大切。

後半は、それぞれ異なる職場環境ですが、共通点として、内視鏡室に起こりうる緊急対応についての意見交換が活発に行われました。

主に鎮静剤使用に関する事例の紹介や注意点、拮抗剤使用の有無や覚醒スコアなどです。また洗腸剤によるもの、トイレで気分不快になった場合、外側からドアが開けられない点や鍵の問題など、多岐にわたりました。すぐに改善は難しいことも何か工夫はないか、情報交換し、一緒に考えることで解決策のヒントを得たりできたと思います。

この勉強会では、このように日常のちょっとした疑問などの解決に役立つよう、内容を検討し企画しています。

次回は 6 月 28 日上田道子講師による「内視鏡検査・治療を安全に行う、前、中、後の看護」です。多くのご参加をお待ちしています。

文責：小倉薫